

社会資本総合整備計画【平成22年度～平成26年度】

交付金名称：防災・安全社会資本整備交付金

整備計画名：ハード・ソフト一体となった土砂災害対策（防災・安全）

計画の目標

近年の集中豪雨の増加等による土砂災害発生リスク増加に対して、ハード・ソフトの一体的な整備と連携により、県民の安全・安心を確保する。

アウトカム目標と整備達成状況

① 土砂災害危険箇所における災害時要援護者関連施設のうち、本計画の施設整備により保全される災害時要援護者施設数の向上

アウトカム指標	現況値 H22当初	最終 H26末
目標	50施設	80施設
実績	50施設	63施設

目標未達成

地権者等との用地買収の協議に時間を要し、事業進捗に遅れが生じたため、目標値を達成できませんでした。今後、関係者への丁寧な説明を実施するとともに、重要施設を優先して事業を推進してまいります。

② 災害時要援護者関連施設を含む危険箇所の基礎調査実施箇所数の向上

アウトカム指標	現況値 H22当初	最終 H26末
目標	24箇所	110箇所
実績	24箇所	125箇所

目標を達成

事業が順調に進捗し、目標を達成することができました。

③ 施設整備により、土砂災害危険箇所において保全される人家戸数の向上

アウトカム指標	現況値 H22当初	最終 H26末
目標	15,616戸	16,200戸
実績	15,616戸	16,034戸

目標未達成

地権者等との用地買収の協議に時間を要し、事業進捗に遅れが生じたため、目標値を達成できませんでした。今後、関係者への丁寧な説明を実施するとともに、重要施設を優先して事業を推進してまいります。

完成事業の紹介

君ヶ野沢(土石流)

砂防堰堤を整備することにより、保全対象人家14戸、市道0.6kmを土石流災害から、未然に防ぐことが出来ました。



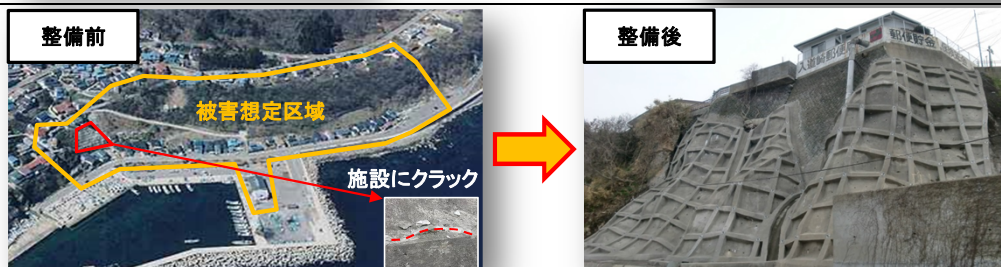
中五反沢(土石流)

過去に、土砂流出により被災を受けた地域に対し、砂防堰堤を整備することで、土石流災害の脅威を、軽減することが出来ました。



入道崎地区(がけ崩れ)

急傾斜地に整備された施設に、一部損傷があり、早期に補修することで、施設の強化・延命を図り、保全人家を、がけ崩れ災害から、未然に防ぐことが出来ました。



今後の方針

県内の土砂災害危険箇所のうち、局地的豪雨による土砂崩落に十分対応できない箇所が今も残っています。今後もこれら対策が必要な箇所について、施設整備（ハード事業）と警戒避難体制の整備（ソフト事業）の両面から総合的な対策を推進してまいります。